

棚田に吹く風

2018
秋
Autumn
季刊

2 特集

棚田と案山子

5 フォトエッセイ

棚田三昧

6 棚田・里山からのたより

「棚田は21世紀の社交場」を目指して
長崎県波佐見町鬼木棚田

8 棚ガール&棚ボーイ

ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9 棚田博士は今日も行く

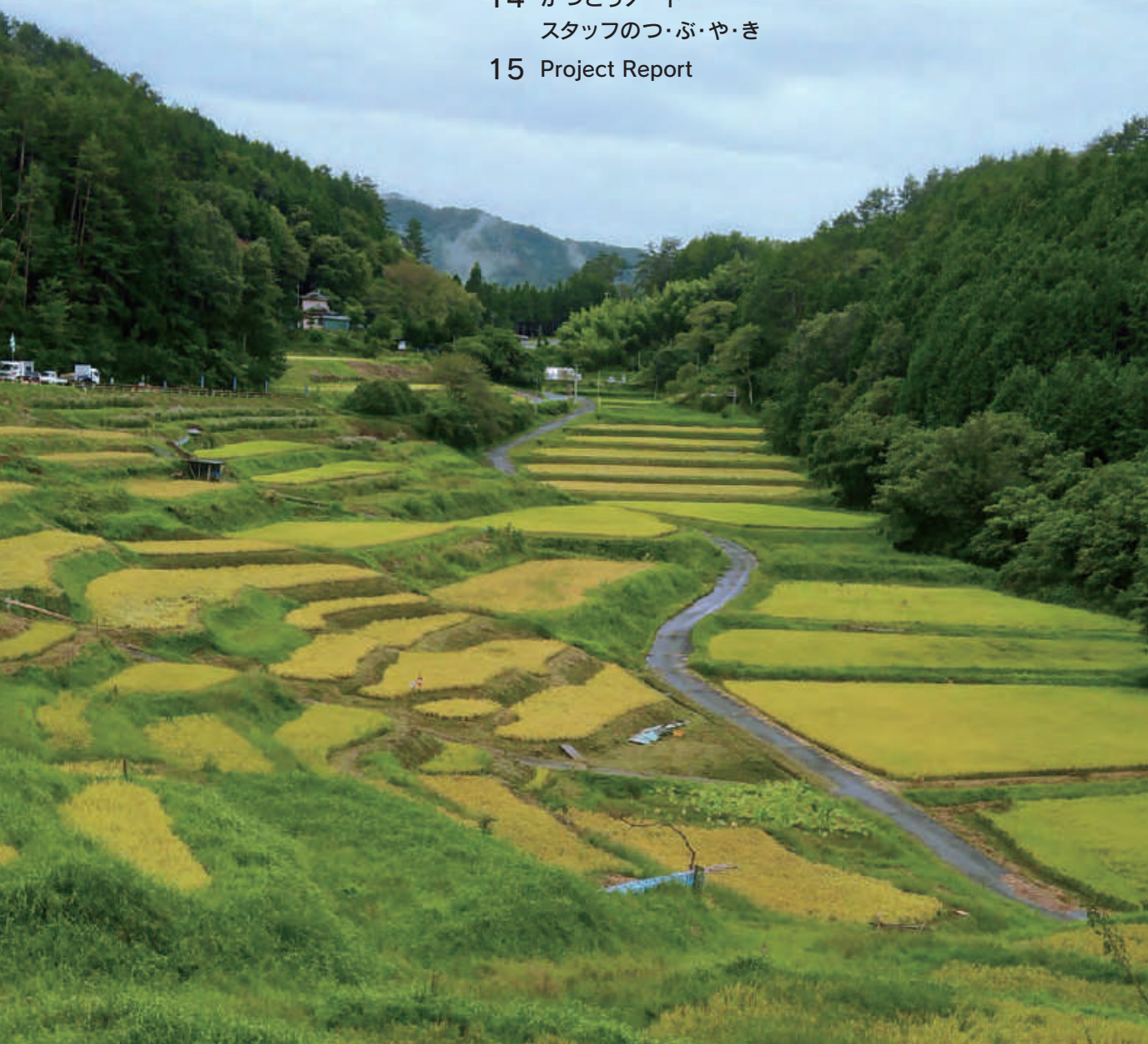
富士を仰ぎ見る櫛形山麓の棚田
山梨県南アルプス市中野

12 会員のひろば

14 かつどうノート

スタッフのつ・ぶ・や・き

15 Project Report



特集

案山子と棚田



稲刈棚田

奈良県明日香村

稲刈棚田は彼岸花の名所。秋の彼岸花まつりでは案山子コンテストが行われる。地元の人々が作る6mほどにもなるジャンボ案山子はまつのシンボル。テーマは大河ドラマだったりその年ニュースになった人物だったりして、毎年、「今年は何が作られるのかな？」と話題になる。ちなみに2018年のテーマは西郷どん。「案山子ロード」には、公募で集まった案山子が並ぶ。単体、カップル、親子、集団などさまざまなシーンの力作ぞろい、その数約50体。傍らの立て札でタイトルや作者のコメントを読んで感心したりほっこりしたり。案山子は11月中旬まで見ることができる。

いまや棚田のマスコットとしての役割も担う「案山子」。稲刈り前の黄金色の棚田を舞台に案山子祭りが各地で行われている。ご当地案山子、リアル案山子、話題性案山子、ジャンボ案山子と工夫を凝らした案山子で賑わう棚田を紹介します。また、案山子研究者、上野裕治氏の解説コラムも必読です！





稲倉棚田

長野県上田市

約30体の案山子が、棚田のメインロード沿いに設置されている。保存会や地元小学生の製作によるもので、設置は8月下旬から10月中旬まで。人気投票もある。「案山子まつり」と言いつつ特にイベントがあるわけではないが、遠く上田市街まで見下ろせる秋の棚田の案山子通りをピクニック気分で行くのは、気持ちがいい。

大山千枚田

千葉県鴨川市



棚田オーナーが製作した約20体の案山子が、棚田上部の道沿いに並ぶ。脱穀も終わったある平日の午後。マイカーに加え大型バスが3台、カメラやスマホをさげた来訪者を迎える案山子。リアリティーよりも想像力豊かな抽象性に富んだ作品の前に人の輪ができていた。人気投票もある。

10月の収穫祭で、役目を終えた案山子のお炊き上げを行っている。



鬼木棚田

長崎県波佐見町

鬼木棚田まつりはユーモアたっぷりな案山子が多い。「冬のタナダ」と題したヨシノ様案山子が登場したのは2004年。当時は約60体だったそうだが、今年は約140体が集まった。大坂なおみさんや、遭難した子どもを発見したスパーボランティアの男性をモデルにしたもの、引退した歌姫やお笑い芸人など、旬のテーマの案山子を見るのも楽しい。人気投票もある。まつり自体は秋分の日一日のみだが、案山子は2週間ほど展示されており、彼岸花と案山子に惹かれて大勢の人が訪れる。



江里山棚田

佐賀県小城市



毎年秋分の日に行われる「ひがん花まつり」のイベントとしてかかしフェスティバルを行っている。作品は公募され、市民に限らず誰でも製作することが出来る。参加賞や、入賞者には地元特産品などの賞品贈呈も。棚田鑑賞広場の周辺に展示されており、まつりの後も1週間ほど見ることができる。



左：クマの親子／右：田を守る女神（いずれも筆者の作品）

カカシの歴史と現代的意義

ランドスケープデザイナー

上野 裕治

カカシに関する研究は民俗学の分野に散見され、近藤直也「案山子の研究―その民族史的研究―」がもっとも詳しい。近藤によると、地域によって呼び名は異なるが、臭いによって鳥獣を追い払うという目的から、カガシ、ヤキカガシと呼ばれてきたものの、田に立てられた人形（ひとがた）のものとして、ソウヅ、ソホヅ、ソホド、ソメ、シメ、などがあり、「古事記」上巻（十六）大国主神と少名毘古那神による国造りの条に出てくる曾富騰（ソホド）が初見であるとしている。このように古来より臭いによって鳥獣を追い払う役目をもったカガシなどの語のものと、人の形を模して田に立っていたものがあり、これらが江戸期以後あたりから総合的にカカシと呼ばれるようになったようである。

「案山子」の字義として明快に解説しているものとして北静廬「梅園日記」（弘化二年（1845））がある。「主山は高く、山の主たる心、案山は低く、上平かに机

の如き意ならん。低き山の間には、必田畑をひらきて耕作す。鳥おどしも、案山のほとりに立ちおく人形故、山僧など戯れに案山子と名づけしを、通称するものならんといへり」とあり、おそらくこれが現在にも通用しているものであろう。また主山、案山、輔山という記述があり、案山が現代でいうところの里山とも理解できるところが興味深い。カカシが平地の田よりは里山に接する中山間地に設置されてきたと考えられるからだ。

現在、特に中山間地においては耕作面積の減少率が大きく、そこに立てられるカカシも、短期的なイベントではなく、本気でカカシとして立てられるものは極めて限定的になつてきた。田の作業は田植え、稲刈りを除いて、草刈りや水管理など極めて孤独な作業であり、そのような作業の中、カカシの現代的意義は「農民の友」としてそこにいる、ということがもっとも大きいのではないだろうか。



【お詫び】 夏号の特集として寄稿いただいた『棚田と芸術』について、引用文献の表示が抜けていました。お詫びして訂正します。

【引用文献】 西田正憲 (2008): 過疎地域の越後妻有と瀬戸内直島における現代アートの特質に関する風景論的考察、ランドスケープ研究、71(5)、pp. 785-790



棚田に架かる虹の架け橋

棚田三昧

写真・文
梅野 秀和

棚田に架かる虹の架け橋

佐賀県小城市江里山棚田

佐賀県のほぼ中央、天山山系の山懷に広がる江里山棚田。私は、もうかれこれ40年近く撮影しているが、従事農家の高齢と後継者難で、以前に比べると休耕田が多くなり、残念ながら景観が様変わりした。

9月初め、それでも地区の人たちは総出て畦の草刈りを行い、ヒガンバナの咲くころはその甲斐あって、大勢のカメラマンや観光客が押し寄せ、今も賑わいを見せている。

九州の棚田の畔は法面を石で積んだ「石積み」の棚田が多いが、この棚田の畔は土をかためた「土坡」になっているため、秋になると畦の斜面一面にびっしりとヒガンバナが咲き乱れる。

ここは集落近くの棚田のほかに、まだ一部の人にしか知られていない通称「奥の棚田」というところがある。文字通り奥の棚田である。集落近くの賑わいを見せる棚田の喧騒が嘘のようで、静かな棚田の光景が広がる。

9月下旬、小雨の中を敢えて「奥の棚田」に行く。予想通り素晴らしい光景に出会えた。風景写真家は、時には天気を読むことも必要だ。



江里山奥の棚田



梅野 秀和 うめの ひでかず

1947年6月佐賀県生まれ。九州各地の風景を中心に撮影。現在は古民家を背景に山里の暮らし取材中。写真集として『九州花百景』『九州の一本桜』『だんだん田んぼの詩』などがある。2006年発行の写真集『棚田～たんぼの四季～』は第9回日本自費出版文化賞受賞。

棚田・里山
からの
たより



「棚田は21世紀の社交場」を目指して

鬼木棚田について

「鬼木」は、長崎県波佐見町の南東部に位置する61世帯、230人が暮らす集落（自治会）の名前です。名前の由来は諸説あるものの、昔、鬼のように大きな木があったことに由来するといわれています。また、鬼木には、戦国時代から江戸時代初期にかけて、攻めてくる外敵に対抗した武装集団がいたという史料があり、古くから地域が連携して集落を守ってきました。恐らく地域で協力し、急斜面を切り開き、石垣を築いて階段状の棚田を造成したものだと思われます。そうして鬼木棚田は江戸時代中期にはほぼ完成していたとされています。22畝、約400枚の棚田は壮観で、下から見上げれば、整然と積み上げられた石垣に悠久の歴史を、展望所からは自然の雄大さを感じることが出来ます。棚田に見惚れた運転手がヘアピンカーブを曲がりきれず、水田に車

棚田を生かした 活性化の取り組み

とダイブしたこともありましたが。現在は、一部耕作放棄地が発生していますが、先人にも負けない地域の結束力で、見る人に感動を与える棚田の景観維持に努めています。

人家に接して築かれた棚田は、私たちにとって日常の風景です。しかし、平成11年に「日本の棚田百選」に認定されたことを契機に、観光客が足を運んでくれるようになりました。最初はこの棚田ブームは一過性のものかも？と疑いながらも、中山間地域直接支払交付金制度が創設されたことが後押しとなり、秋分の日に「鬼木棚田まつり」を開催することになりました。

まつりには自治会総出で運営に当たります。ここでも結束力を発揮です。第1回の300人から昨年の第18回には7000人と参加者は増加しています。これは住民の手づ



1: 朝霧の棚田 / 2: 夏の鬼木棚田 / 3: 案山子まつりの賑わい / 4: 共同作業で棚田保全

地域内通貨にもいち早く取り組み、案山子出品者には鬼木加工所でしか使えない商品券を参加賞として配布します。商品券は加工所で販売する味噌などの購入に充てられ、加工所の売り上げにも貢献していきます。

棚田をまもるための 今後の展望

こうして観光客が増えていく過程で、①棚田の美観を保とう、②郷土に誇りが持てる、といった意識が芽生え、最近ではやっと③儲けよう、と公言できるようになりました。

どうすれば、年間を通じて観光客を迎えられるのか、模索しています。都市住民との交流を拡大するため、「案山子づくり体験」や「夏休みの親子遊び学校」「味噌・豆腐づくり体験」に取り組んでいます。加



グラウンドの芝生化

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR佐世保線有田駅下車、タクシー利用で約20分

【自動車】 西九州自動車道波佐見有田ICから
 県道4号、1号線を経由し鬼木改
 善センターを目指す。1号線からの
 分岐点に棚田の看板有り。ICから
 6km

■ お問い合わせ

鬼木棚田協議会事務局（波佐見町役場内）

Tel.0956-85-2111



開発に意欲的です。しかしながら、それが現実味を帯びて展望所から真下に作業道が急坂で、機械を入れること、歳になるMさんが放題になってしまっています。今、60代から70代が大穴のようにイベンかは自信がありません。継いだ棚田を後めに何ができるか、ベントではなく、種として人が集まる

しかしながら、高齢化・人口減少が現実味を帯びてきました。特に、展望所から真下に広がる棚田は農業道が急坂で、トラクターなどの機械を入れることは職人技。今年74歳になるMさんが引退したら、荒れ放題になってしまわないかと懸念しています。今、保全活動の中心は60代から70代が大半で、10年後まで今のようにイベントを継続できるかは自信がありません。先人から受け継いだ棚田を後世に引き継ぐために何ができるかを考えたとき、イベントではなく、憩いの場・景勝地として人が集まるよう、グラウンド

追伸

第23回全国棚田サミットには多

の芝生化やモミジの定植を始めた。棚田カフェ・ゲストハウスも始めたいという夢はありながらも、まだまだ前途多難です。

今は県外ナンバーの車に「ようこそ。どこから見えましたか？」と話しかけ、「癒されました。また来ます」と声を交わすようにしています。地道ではありますが、確実な方法で、鬼木棚田ファンを拡大していきます。いずれはいい知恵が沸き、さらに活性化することを願ってやみません。



彼岸花咲く秋の棚田

数ご来場いただきありがとうございます。棚田散策のほか鑑元見学も好評で、とくに棚田米が美味しかったと言っていたき励みになりました。数少ないウターン組も棚田保全に関心を持ち始めました。若い人たちの思いを大切にして行きたいと考えています。

(鬼木棚田協議会)

棚 ガール Tana Girl ボーイ & Boy

常葉大学社会環境学部 Vol.9

棚田の虜になった乙女 通称「棚ガール」

男子

「棚ボーイ」

そんな彼らを紹介するコーナーです!!

齊藤 千夏 (23歳)
後藤 優太 (21歳)

私は、ゼミで松崎町を訪れたのがきっかけで大学3年の時から、石部の棚田のボランティアに参加し始めました。農作業をやるのはほとんど初めてだったけれど、初めて参加した棚田の畦塗りの時に、作業が終わった後の達成感や、畦の塗られた棚田の景色のきれいさに、感動しました。それからボランティアに参加していく中で、自然に囲まれた中での農作業の開放感や、保存会や地元の方々、オーナーの方々との交流を通して、棚田に行くのが毎回楽しみになっていきました。

棚田での農作業は、非日常的で癒しを与えてくれ、さらに、普段の生活を頑張る活力をもらえる場だと感じます。ボランティアには、リピーターとして参加している学生が多く、棚田には何度も通いたくなる魅力があると思います。そのため、地域の人々だけではなく、様々な団体やオーナーの方々が保全活動に賛同し、活動しているのだと思います。(齊藤)

大学一年生の時、初めて石部棚田に出会いました。その時、驚いたのは石部棚田を上から見下ろした時の景色でした。田んぼが段々に連なっている様子は壮観で、棚田の下に広がる海はと



ても美しく、私はその美しい景色に目を奪われました。その美しい石部棚田に出会ったことがきっかけで、大学3年生の時に石部棚田がある松崎町のことをより詳しく知ろうと思い、山本早苗ゼミに入りました。現在、私はゼミで石部棚田を始めとする松崎町の地域資源に焦点を当てた卒業研究に取り組んでいます。また、卒業研究だけでなく、石部棚田ボランティアにも参加し、農作業のお手伝いもさせてもらっています。今後は、石部棚田がもっと盛り上がり上がっていくことを期待しています。(後藤)



第十六回は奈良県明日香村にある稲淵(いなぶち)の棚田を紹介するわね!



秋には黄金色の稲穂と、真っ赤な彼岸花が棚田一面に咲き誇り、農道には様々な案山子が並ぶことで観光名所としても有名な、この稲淵棚田。



田植え、草刈り、稲刈り、脱穀の作業、そして収穫祭への参加はオーナーになる必須条件よ! 作業時には地元からお食事の提供もあるわよ! 収穫時には玄米約40kgがもらえるわ!



次のオーナー募集は年末～来年2月よ! 詳細はNPO法人明日香の未来を創る会まで 問い合わせてみてね。
<https://www.asukamirai.org/>

ヨネちゃんの



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介
第十六回

第十六回

こちらもチェックしてみてね! / 棚田オーナー募集地域紹介サイト 棚田百貨堂 検索

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

富士を仰ぎ見る櫛形山麓の棚田

山梨県南アルプス市中野



南アルプス市は、平成に入り櫛形

町、昔安村など6町村が合併して誕生した新市、山梨県の西部を占める。中野は南アルプス市の南西部に位置し、櫛形山の山麓、市之瀬川の開析扇状地上にある集落。その北にある棚田は、富士山を仰ぎ見る棚田として知られ、棚田ネットの『全国棚田ガイド』にも紹介されている。

甲府から比較的交通の便の良い棚田

私は2018年3月下旬に初めて訪ねた。中野に向かうには、まず南アルプス市の中心市街地小笠原を目指す。小笠原までは甲府駅前乗り場1番のバス停から山梨交通・鰺沢行きに乗り、小笠原下仲町で下車する。平日なら25便前後、休祝日でも15便前後の運行があり、比較的用便

利である。

バスは、駅前から県道6号を直進、中央1丁目交差点を右折、国道52号及び県道5号を西から南へ向かう。釜無川に架かる開国橋を渡り、上今諏訪町交差点を左折、県道5号をひたすら南下する。かつてボロ電の愛称で呼ばれ甲府駅と鰺沢町を結んでいた山梨交通の路線に沿う道だ。開析扇状地の水を集める滝沢川の橋を渡ると小笠原の市街地である。バスの下車地、小笠原下仲町の交差点を右折、県道108号を県民の森へ向かって斜面を登り、山際で左折すれば集落の背後に棚田が姿を現す。

扇状地のテッペンから

棚田越しに甲府市街を望む

棚田は、櫛形山麓の開析扇状地面

なかしま みなひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

に拓かれている。開析扇状地とは、現在もなお砂礫の供給が行われる沖積扇状地とは異なり、青梅を扇頂とする武蔵野扇状地のように、洪積世の時代に形成されたものだ。従って、その後の海水準変動により、河川による堆積作用にかわり浸食作用が進み、河川が扇状地面を削って谷になって流れ、その末端は武蔵野台地における国分寺崖線のような急崖(段丘崖)になって沖積面に接している。

山を背にした棚田の最上段、南北の両端に視点(ビューポイント)が設けられている道路から眺めると、眼前の扇頂部分は棚田、扇央から扇

端部分にかけてはブドウ・モモなどの果樹園で占められている。扇状地は、開析、沖積を問わず、厚い砂礫層が堆積しており、ほとんどの河川水が浸透するため、お隣の日本を代表する広大な御勅使川扇状地同様、浸透量の少ない扇頂部分にしか水田はなく、扇尖部は果樹園になっている。

扇頂部分は市之瀬川や堰野川の谷によって分断され、六科^{むしか}丘、あやめが丘、上野山、御殿山などと呼ばれる孤立した丘になり、釜無川に面する崖となって終わっている。丘の先、左手には甲府盆地が広がり、甲府市街地のビル街まで見渡せる。正面、右手には御坂山地の上に五合目あたりからの富士山が姿を見せる絶景である。

扇頂部分の傾斜9分の1の斜面を占める棚田は、中央を走る農道により南北に分かれ、それぞれが2列と3列の区画に区分される。北が3列、南が2列であるが、北の中央部分の1列は10段前後しかないのに対し、他の3列は20段から30段近くの棚田を形成。一枚が2〜3[㍔]の広さ、比較的大きなものでも3〜4[㍔]程度だ。法面は石積みで、高さは大部分が0・5〜1・0[㍔]ほど、畦畔はコンクリートのほかビニールの畦シートが目立つ。

水田の用水は、通常は市之瀬川の自然流に依存、櫛形山中に江戸中期の建造とされる北伊奈ヶ湖と昭和10年代から20年代にかけて建造された南伊奈ヶ湖の2つの溜池があるが、早魃時にのみ市之瀬川に落と

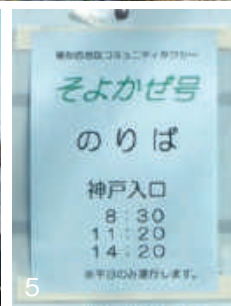
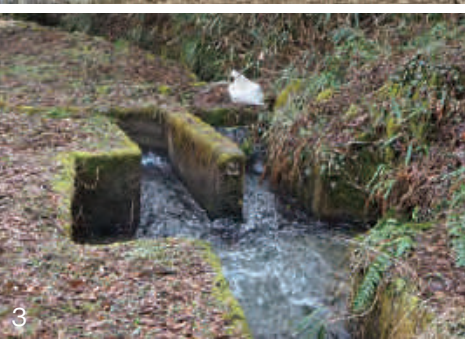
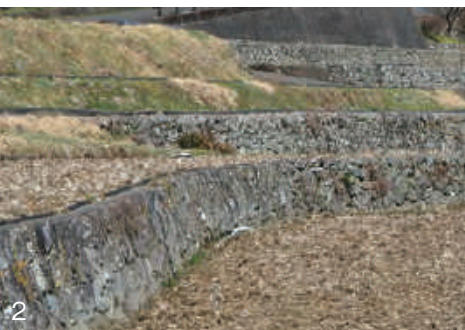
して利用されることになっている。市之瀬川からの取水は扇頂部に左右両岸に均等に分水する合口堰が設けられており、右岸が中野大口堰、左岸が上市大口堰とよばれる。ただし、右岸では下流に上杉堰、下杉堰、上野上堰などいくつかの堰があるため、中野大口堰で取水された水の半分は市之瀬川に戻されることになっている。これらの井堰は中野・上野・上市之瀬・下市之瀬の集落で管理され、休耕地が少なかった10年ほど前まではそれぞれの水田に取水する順番が決められ、各戸に割り当てられる半日の使用時を逃せば、再度の利用日まで待たねばならぬ程厳しいものであった。

花とタクシー 〜二大事業のキーマン〜

現地でお会いした棚田の守り人は「ふるさとを錦で飾り隊in中野」の代表小野忠さん70歳、奥さんと二人だけの世帯だ。大学卒業後大手ゼネコンの清水建設を経て山梨県庁に入庁、60歳の定年まで勤め、最後は土木部長であった。34歳の時に父の後を継ぎ15[㍔]、7枚の水田を耕作する兼業農家になった。

現在は所有する水田15[㍔]と耕作を止めた農家の水田5[㍔]、あわせて20[㍔]、8枚を耕作。桑畑からかわった1畝のウメ・カキ畑は荒し作りの状態にあるという。所有する機械類はトラクター（13馬力）、歩行型2条田植機、バインダーなどで、自給・縁故米を生産するのに必要な最低限の装備だ。

しかし、その経歴から集落では頼られる存在であり、中山間地域等直接支払の代表を一時務め、中野区長も経験、その折には櫛形区長会の会長でもあった。現在は耕作放棄地を無くすために立ちあげられた「ふるさとを錦で飾り隊in中野」代表、高齢者の足を確保するための「櫛形



1: 甲府盆地の先には富士が見える／2: 石積みの棚田
／3: 堰で均等に分水する／4: 守り人・小野忠さん／5: コミュニティタクシー乗りの時刻表

西地区コミュニティタクシー」の事務局長を務めている。

前者の「錦で飾り隊」は、地区の棚田12・5畝のうち3分の1は各戸で耕作されているが、残り3分の2が自力では耕作されなくなりつつある現状が集落の無尽の会で話題になり、なんとかしなければならぬというのが発端。その結果、兼業農家38戸と非農家2戸が立ち上がり2015年5月に飾り隊が結成された。まず3分の1について、小野さんのように自作地の棚田の他に作られなくなった他家の棚田を5〜30畝を引き受けて耕作するというもの。地権者には小作料として10畝当たり現物で30〜60キを渡ししているという。

残りの3分の1弱、3畝、70枚については全員で春は菜の花・アカソバ・ポピー、夏はヒマワリ、秋はアカソバ・コスモスなどを植え、花で飾るという取り組みである。最初県から種子を頂き、次年度からは自分達で採種し、季節ごとに耕起しているという。この作業には女性を中心とした老人組も参加して手伝っているそうだ。

後者の「コミュニティタクシー」



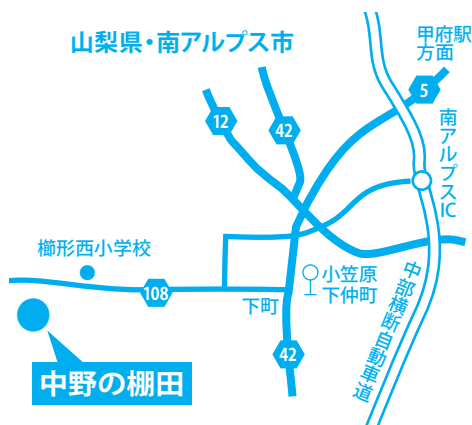
お蚕様を祀る。以前は養蚕業が盛んで、この付近も果樹園になる前は桑畑だった

は、交通弱者である高齢者のためのDoor to door方式の公共交通機関のシステム。運営主体は7区の区長、民生委員代表、生き生きクラブ代表からなり、運営経費は運賃、市の補助金、100人以上のサポーターの寄付などによって賄われる。実際の運行は土日、休日を除く毎日、1日往復の6便、行きは地区内の17か所の乗り場から交通結節点・医療機関・商業施設などに利用者を運び、帰りはこれらの施設から自宅まで送り届けるというもの。利用者は月1500円の定期を購入するが、乗車ごとに500円の運賃を支払うことになっている。開業して4年目を迎えるが、過去3年間の実績は1日当たりの利用者が2015年9・6人、16年11・8人、17年15・0人と年々増えており、あ

と一息で安定経営になるだろうということである。

これら2つの事業を支える小野さんは地域のキーマンの存在だ。ことに前者の「飾り隊」の事業は、高齢者の引退により、急増する耕作放棄地を如何にして少なくするかという棚田地域に共通する問題を解決するのに有効的な方法と考えられる。それも集団で少しずつ耕作を負担するというやり方は他の地域では見られない方法であり、中野の「飾り隊」の事業はもつと注目されてよい取り組みといえるのではないだろうか。

都川の棚田へのアクセス



【公共交通】 JR甲府駅から山梨交通・鯉沢行（日に15便）に乗り、約30分の小笠原下仲町で下車。櫛形西小学校まで3km徒歩約45分

【自動車】 中部横断自動車道南アルプスICから県道42号線の下町交差点より県道108号線に入り櫛形西小学校を目指す。この小学校から南斜面一帯に棚田が広がる。ICより5km



右：「飾り隊」の活動を紹介する立て札／ 左：アカソバの花

命の繋がりと里の美を踊る

NPO法人鴨川現代バレエ団 理事長 長村 順子

稲刈りが終わり収穫祭を終えると、大山千枚田はライトアップされ、「棚田の夜祭り」のステージが始まります。「里舞」のシーズン到来です。

保存会カリスマ理事長の石田三示氏より、「里山版 よさこいソーラン」のようなものを創ってくれない?と依頼されたのが今から16年ほど前の「棚田サミットin鴨川」。鴨川へ移住し棚田オーナーになって2年目の私は張り切って受託。「但し、ダンサーが少ないので石田会長も踊ることが条件!(まだその頃は法人化されていなかったので会長でした)」などと言いながら、すでに私の頭の中には「太古からの命の繋がりと」ということが浮かんでいました。千枚田のある大山地区の大山寺の上にある高倉神社(ややこしい…)に姫神さんの「神々のうた」という曲を持って3分半の踊りを創りました。それが『ルーツ』(後に、姫神さんにはこの曲に関してほぼ永久使用のお許しを戴きました。ありがとうございます!!)。

会長がセンターを張り、その周りを6人の女性ダンサーたちが踊ったサミットでのお披露目も無事に終わり、気を良くしたのかまたまた石田会長(現理事長)から、「六本木に講演に行った時、写真家の青柳健二さんが音楽創って(またまたややこしい!)こんなCDがあったよ。これで創れない?」早速その場で拝聴。「いけます/ステキ!!」棚田オー



ナーになったばかりの私が一番関心があったのが、連作障害もなく連綿と稔りを与えてくれる「イネ」という不思議な植物(食物?)。確かキエフバレエ団だったかが、麦の穂が一面に広がる風景を踊りにしていたものがあり、私もいつかそんな踊りを創ってみたいと思っていました。それが『稲』。

繋げてその恵みを受け取る人間たちの踊りを、一緒に鴨川で踊ってくれている女性たちと、棚田の畔に咲く彼岸花が重なり、真っ赤な衣装を身にまとった『華』。この三作品が母体となり、これを里の踊り「里舞」と名付けました。青柳さんには無償で音楽提供して頂いて感謝です!いつかお返し出来たら良いのですが…。

今夏は、『喜びの樹』という新作に挑んでいます。舞踊で里の美を伝えていきたい。「夜祭り」では20曲程の「里舞」をステージに載せます。これまで続けてこられて、ご支援下さった皆さま、誠に有難うございました!!

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声8000字まで、会員レポート4000字まで。写真も添えて)〒160-0023 東京都新宿区西新宿セーバー1-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの

Best Shot!

会員のみなさんのベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎月、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



新潟県十日町市 蒲生の棚田 阿久澤剛樹

雲海も有名ですが、雪に埋もれた情景も見事です。見る者を深い精神世界に誘う静寂な棚田。農家民宿「トロノキハウス」から至近のため、毎週眺めては季節の変化を感じています。

棚田サミットに参加してー長野県小谷村

東京都品川区 高山 承之

長野県小谷村は267平方キロで山林が9割。人口約3000人。同行のKさんは元化学メーカー社長で群馬・川場棚田のオーナー。サミットを何度かご一緒した仲。

あいにくの雨のなか、総会は子供達による県歌「信濃の国」からスタート。松本村長と信州大内川助教、東京農大武生教授のディスカッションは自然体で好感が持てた。分科会は「過疎を救う移住農業女子」「まもり人ミーツング」「世界の傾斜地農業」など8つで前半と後半の「はしご」が出来る。この試みの成果はいかに？

懇親会は地元子供達の太鼓でスタート。盛りだくさんの地酒・郷土食がふるまわれ、司会者の声が聞こえない程の盛り上がりなのな、棚田保全の思いを新たにした。

最終日は現地の棚田見学。白馬乗鞍地区棚田、藤島棚田ほか雨に煙る3か所の棚田で説明を受ける。斜面に特定の植栽を行い草刈を楽にする技法を初めて知る。閉会式は村長の謝辞の後、村の若者による農業振興の宣言。協議会旗が次回開催地の長門市に引継がれお開き。午後は棚田キャンプで活躍する玉崎さんの案内で上田市の稲倉棚田へ。ようやく晴れて棚田日和。Kさんもスケッチ帳を片手にご機嫌。現地NPOの石井さん（分科会「農と観光」のキャスト）のお話も伺え、充実した2泊3日だった。



藤島棚田

棚田散歩

山口県長門市
東後畑棚田



夏前に仕事で山口県へ行く機会があり、せっかくなので足を延ばして、長門市の方へ。そう、そこには個人的に行ってみたかった日本の棚田BEST3に入っている「東後畑棚田」があるのだ！
油谷地区まで行くと、本州最西北端の向津具半島を中心に一大棚田地帯が、見渡す限り広がっている。この棚田は、眼下に日本海が広がっていて、季節によってはイカ釣り漁船の漁火が見えることで有名。だがしかし、旅の行程的に、訪れたのは真昼間。今回は、残念。「棚田を意識して訪れることが初めて」なパートナーと一緒にだったが、山道を抜けて開けたところに広がる棚田を見て、彼もとても気持ち良いと心底リラックスしていた。やはり、棚田には癒し効果があると改めて思った。

その後、棚田を回るように山を下ること数分、すぐに見えてくるのが、今やインスタ映えの人気スポットとして世界中から観光客が訪れる「元乃隅稲成神社」。綺麗な紺碧の海に、崖沿いに連なる赤い千本鳥居…。美しい。

それにしても棚田には全然人がいなかったのに、こちらは大渋滞。駐車場もいっぱい、随分下の方の臨時駐車場に案内され、シャトルバスまで出ている状況…。この大勢の観光客のどのくらいの人たちが、すぐ近くの棚田の存在を知っているのかな？と思った。

(東京都 峰 不二子)

鎌倉で出張棚田講座

2018年9月8日 報告 高桑 智雄

鎌倉駅前の鎌倉市生涯学習センターにて、「日本の原風景『棚田』を楽しもう」と題して出張棚田講座を行いました。今回、鎌倉市生涯学習推進委員会が鎌倉及び周辺の在住の方に生涯学習の題材の一つに「棚田」を紹介したいということで開催が実現しました。

聴講者は25名ほど集まり、前半は基礎知識、現状、保全活動の紹介、後半はテーマ別に全国の美しい棚田のスライドショーを見てもらい、鎌倉から近い葉山の棚田や、姉妹都市である長野県上田市稲倉棚田なども紹介し、棚田の魅力を楽しんでいただきました。



『旧暦棚田ごよみ』チーム始動！

2018年8月27日 報告 久野 大輔

7年目になる『旧暦棚田ごよみ』の制作が始動しました。写真家の青柳健二さんに今年も候補写真を200点ほど選んできていただき、大きなデスクの上に並べて選定していきます。

睦月から師走まで、旧暦の季節を念頭に、場所・アングル、色、ズームの度合い、「棚田感」は出ているかどうかなどを考慮して進めていきます。候補のものを並べてみて、12ヶ月のバランスを見て。。。写真決定！チラシを先行して作成し、小谷村の棚田サミットでも配布していただきました。

発売は10月下旬予定。「使いづらいけど美しい棚田ごよみ」、来年も使ってください！

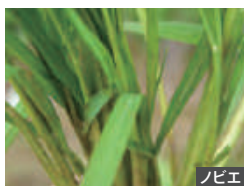


棚田ネットワークのかつどろノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

「和」という字は「禾本科の植物を口にする」と書きます。禾本科とはイネやコムギ、トウモロコシなどのイネ科の昔の呼び名だそうです。棚田でお米作りをしていると、なんといっても大変なのが夏場の草取りです。特に、ノビエ（食べられる稗とは違う雑草）は、見逃すと旺盛な繁殖力でイネを凌駕し、田んぼを力オスな状態へ招いてしまいます。なので、7月初旬の草取りでできるだけ駆除しておきたいのですが、何分穂が出るまでは、ほとんどイネと見分けがつかない。しれっと「僕イネですけど」というような顔で、私たちをあざ笑うかのように生えているのです。数年前に仲間が、このイネとノビエの微妙な違いを発見しました。それは、イネには葉が分岐する節に羽毛で出来たような「輪っか」があり、ノビエにはそれが無いことです。後で調べてみるとそれは「葉耳（ようじ）」と呼ばれるものらしいのですが、これで劇的にノビエの駆除が楽になりました。今では、まずイネの列をはみ出しているものを見つけ、葉耳のあるなしを確認すれば、ほぼ90%の確率でヒエは駆除できるようになったのです。つまり「和」を乱しているもの、そして「輪（和）」がないものがノビエだったのです（笑）。まさにイネは和の象徴で、日本人はお米を食べることで和する心を育んできたのでしょう。



スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局
Kuwakuwa

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

猛暑の中で稲刈り体験



鴨川市川代棚田の稲刈り体験は、田植えと同じく象印ライスマイル会員も参加し、オーナーと同じ8月26日（日）に行いました。当日は35℃を超える猛暑の中、28人程で稲刈りにチャレンジしました。

稲刈り初体験の人も多く、鎌の使い方、刈り取った稲の結束の仕方、はざ掛けなど農家の方の指導を受けながらの体験、苦勞しながらもなんとか終わることが出来ました。また、乾いた田んぼは杭が刺さりにくくはざ掛けが倒れたり、子ウサギが飛び出してきてびっくりなどのハプニングもありましたが、けがや心配された熱中症もなく無事終了しました。

お昼は、地元婦人部による手作りカレー弁当を木陰でいただきました。

参加された皆さま大変お疲れ様でした。自分たちで収穫した新米を楽しみにしましょう。なお、猛暑のため作業時間を短めにしたことによる残りの一枚の田んぼは、地元農家の方に刈っていただくこととしました。

(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

今年もビオトープ観察会



今年の夏は大雨、猛暑となりました。「土潤うて溽（む）し暑し」7月28日（土）10時から、こどもビオトープ観察会が開催されました。参加者は合計10名（うち子供は6名）。説明はほどほどに早速、現地で観察会をおこないました。ニホンアマガエル、ショウリョウバッタ、サワガニ、棚田に多いミヤマアカネ、キイトトンボなどが捕獲されました。暑いので30分程度で終了。なお、棚田カフェ「ペンペン草」でまとめをする際、子供には関心の薄い植物についても紹介しました。紫色の花を付けるミソハギ、白い花を付けるウリカワ、黄色い花を付けるアメリカセンダングサ。なお、参加者にはカエルグッズ、坂折棚田で収穫されたトマトのプレゼントがありました。

稲刈りは9月23日（日祝）を予定。雨天では出来ないので、参加者は事前にご連絡よろしくお願いします。（編集部アドレス：hensyuu@tanada.or.jp）

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

夏の草刈り・草取り実施



6/30、7/1に1回目の畦の草刈り・草取り作業を行いました。関東では梅雨が明け、棚田も激しい暑さでしたが、小学生コンビを含めた8名での作業。ノビエもやすやすと見分けられるようになり、ほとんど見逃すことがなくなりました。2日目は、集落のお祭り「大地引綱」に参加。小学生コンビは大はしゃぎでした。

そして8/25、26日には2回目の草刈り作業。夏場のこの作業は、単に雑草駆除だけが目的ではありません。一番大切なのは、田の水回りの調整。特にこの時期、稲は出穂して一気に成長するため水が必要です。ところが私たちの田は、水のたまりが悪く、草刈りと共に畦周りの水の流れを確保し、田の草取りをしながらよく田を踏み込んで、水漏れの穴をふさがなくてはなりません。熱波の中の過酷な作業でしたが、常連さん7名が頑張ってくれました！そして今年も豊作の予感です。

(高桑 智雄)



私たちは都内荒川区にある
小さな造園会社に集うものです。
先人が残した偉大なレガシーである棚田に
多くを学ぼうとするものです。

大地の水循環に棚田の果たす役割は
現代社会が求めるグリーンインフラそのものであり、
都市とその上流域にある棚田を人の輪でつなぐことで
少しでもレガシーの保全の
役に立ちたいと考えています。



北部緑地株式会社
HOKUBU-RYOKUCHI

〒116-0002 東京都荒川区荒川5-4-3
TEL 03-3805-7261 FAX 03-3805-7265
URL <http://www.hokubu-r.co.jp>



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に
協力したい！」という会員によって自
主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい「棚田」をどのように
保全していくことができるのでしょ
う？一緒に考えませんか？ぜひ、私
たちと棚田の応援団になりましょう！

会員に
なろう！

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風（年4回）
やホームページで豊富な棚田情報を発信
しています。会員になりこれらの活動に参
加してみませんか？

○個人会員
維持会員 1口1万円（1口以上）
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円



法人会員を募集しています！

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々
と都市住民双方の協力のもとに様々なプ
ログラムを企画・運営しています。これら
の社会貢献活動に賛同し、ご支援いた
だける企業・団体・事業主様を募集してい
ます。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員（賛助会員）
1口3万円（1口以上）

今年は夏から秋にかけて
本当に災害列島でした。
被害の中には天災と人災
が混じったようなケースも
ありました。タワーマンシ
ョンのエレベーター停止、液状
化、北海道全域のブラック
アウトなど、都会的な暮ら
しがどのような土台の上に
成り立っているのか、あらた
めて考えさせられます。

中越地震の後に山古志村
で聞いた言葉。「昔の道は地
形や水脈を読みながら時間
をかけて造られたから丈夫
だった。現代の道路は工事
期間と予算の兼ね合いで出
来ている。復興工事と同じ。
何かあればまた崩れるだろ
う。でも、今のシステムでは
それしか出来ない」。文字通
り、命がけで残された教訓
から学び、次代に伝えたい
ものです。

編集部から

ホームページのぞきを見て！

棚田ネットのWebサイトも
見てみてください！



<http://www.tanada.or.jp>



2018年 秋号 Vol.109

発行  認定NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565